
零番隊長転生記

死神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零番隊長転生記

【Nコード】

N6624Y

【作者名】

死神

【あらすじ】

零番隊長が無断で現世に普段着で遊びに来ていた。だが来た時トラックに気づかず轢かれてあっけなく死亡した……。が、死んだはずなのに生きていた。死神の力は継続しているだから助かったと思いきや体全体が縮んでいて隣にはルフィが！前の生活習慣とは全然違う新しい暮らしに苦労するわ、海賊がうじゃうじゃいるわ。と、大海賊時代で頑張る話。

1 第二の人生の始まり

「きゃ、きゃ？（ここは、どこだ？）」「
ん？ちよつと、待った。きゃ？つてなんだ？

「きゃきゃー！？（お前は誰だよ！？）」「
いや．．．．何故普通に喋れないんだ？

？？「お！レオ！兄ちゃんだよー^^」
兄ちゃん？なんだ、この子供^{ガキ}は。

？？「おい、ルフィ。ゴム人間なんか嫌われるだけじゃねえのか？」
ゴム人間？
あと、この餓鬼は『ルフィ』って言うのか。じゃあ、あのおっさん
らは？

ル「シャンクス！嫌われないよ！レオだつて笑ってるよ。」
まあ、嫌われないように笑ってるだけだが。
で、このおっさんは『シャンクス』か。聞いた事は無い。

ル「シャンクス、海賊船に乗せてよ。」

．．．．．ん？ちよつと待てよ。海賊船？海賊が居るのか？

いや、海賊なんて現世でも見たことが無いぞ？ちよつと、記憶整理
するか。

たしか、1時間前俺は山じいに無断で現世に遊びに行ったんだっけ？しかも、普段着に着替えて。これはもう違反行為なんだけどな。

「……あ。俺、現世に着いた時、体に物凄い衝撃を受けたよな。確かトラックに轢かれたっけ？ああ、なんて馬鹿なんだ。」

だから、今体が小さくなってるんだな。……体が小さく？

まさか、転生って奴か！？乱菊が言ってたな。確かよく小説に出てくるって。現世で流行ってるって。俺はそのパターンか……。だとすると、前とは違う世界になるよな……。だって海賊が居るし。

このおっさんも海賊か？へへ、海賊には見えないけどな。そろそろなんか喋ってみようか。分からないだろうけど。

「きゃきい？（ルフィ？）」

ル「シャunks！レオが今！ルフィって言った気がする！」

シャ「何！？レオ！おれの名前も！」キラキラキラキラしてるな！。

とりあえず言っておくか。

「きゃんくしゅ！（シャunks！）」

あれ？なんか言えるようになった？

シャ「おお！」

??「おれはルウ。言ってみて！」

「るう?」

あ、言えるようになったかも。

ルウ「おお！凄い！」

??「おれはベンだ。」

シャ「ええ！？ベンも頼むのか！？」

ベ「別にいいだろ？」

「ベン！」

完璧に言えるし。

ル「レオ〜凄いぞ〜。」

。ありがとうなルフィ。でも・・・なんか・・・眠くなってきた・・・。

「ふぁ！（はっ！）」
寝てた……orz。

ル「あ！起きた〜！」

ドツカアアン

「ふえ！？（何だよ！？）」
何が起きた！？

あと、シャックスは？居なくなってる。

ル「大変だ。じいちゃんが帰って来た！」

いや、普通そこ喜ぶところだぞ？
うん？海兵？

海兵「ガープ中将！手荒です！」

ガ「うつさいわい！」

海兵「？あ！」

ガ「なんじゃ？」

海兵「先に行ってます！剃！」

剃？剃って何……瞬歩より遅いじゃん。なーんだ。

スタッ。

海兵「君がルフィ君？で、この子がレオ君？」

ル「そうだ！」

「ふぁゝ！！（うん！）」

海兵「（レオ君可愛い。）向こうでなんか食べない？」

ル「え！？行く行く！」

海兵「（ルフィ君も食欲旺盛だもんな。）じゃあ、先に行っておいで。レオ君は僕が預かるよ。」

ル「おお！はい。」

うおーい！肉>俺かよ！？

海兵「レオ君？」

「きゃゝ！（誰ゝ！）」

そつえばこの海兵誰だよ！？

海兵「あ、僕はフェリーだよ。」

フェリー！？船じゃないんだからさ、もうちょっと良い名前付けてあげれば良かったのに。可哀想・・・。

「ふえりー？」

ル「あ！ちゃんと言った！レオすげー！」

ありがとう。

フェー！？まだ生まれたばかりなのに。天才かなー？」

うーん。どっちかというと、前世の記憶があるからだよ。でもさ、死神の力はあるんだ。あの黒鷹と銀虎と青龍が精神世界に居るのを確認したからな。

ガ「ほ」。さすがわしの孫じゃ！」

え？この人が俺の爺さん？・・・え？このジジイなんか強そうだな。

なんか俺、今日から新しい人生ですが調子が狂いそうです。

2 修行で誤って

あれから、4年の歳月が経った。

え？経ち過ぎ？だって何も無かったし。あ、エースには会った。サボにも。

で、今無人島に居るんだよねー。なんでかな？このジジイ！！覚え
てろ！

何か無いかなー？

ガオオオ！！

うん？巨大な・・・熊？え！？虚並の大きさ！？何コレ！コルボ
山より大きいよ！！

ガオオオ！！！！

てってれっ、とりあえず逃げよう。

うゝん。木の上に行こう！

タッタッタッタ。よっこらせっ！ふう。登れた。

・・・・・・。うん？なんだこれ。グルグル模様が付いた
バナナ？何コレ。いいや、食っちゃえ！！なんて適当なっって言われ

そう。

ガブッ

・・・・・・・・・・・・・・・・うえええ。なんじゃこりゃあああああ！！！！

不味っ！！何これ。最初辛いと思ったら苦くなって。ああ！！何だこれ！！

うつ・・・・・・・・痛い目に遭った。

ガオオオオオ！！！！

やっべ！登ってきやがった。

降りよう。

ガオオオ！！

飛べたらいいのになー。

バサッ、バサッ。

ええええええええええ！！！！！！！！！！なんだこれ！！

スタッ

ええええええ！！！！！なにこれ。

ジャバアアア

え？水？

ペロツ・・・塩辛ーーーーい！！！！海水だーーーー！！！！！！

なんなのーーーーー！。こんな無人島やだあああああああ！！！！

出るーーーーー！！！！！！

バサツ、バサツ。

え？今の格好は・・・・・・隼！？さつき水で今は隼！？

なんなんだよこの世界は！

「どうなっただあああああああ！！！！！！！！！！」

って、飛びながら叫んでたら、

ドンッ！！！！！

何かに……マストに当たった。海軍軍艦のマストに。

何故か元の姿に戻ったが、そのまま落下。

ドテッ。

「痛い……。」

フェ「！？レオ君！？」

フェリー？フェリーなの？

ガ「なんじゃ、どうした……。レオ！？なんでここに居るんじゃ！」

なんでこのジジイが居る？……。ジジイの軍艦に当たったのか！？

「うう……。」（泣）

俺ってこんなに泣き虫だったか？

ガ「うー、ウターンじゃ！」

ウターン？どこに行くんだ？

ガ「海軍本部に戻るぞい！最速での！」

海兵達「「「はっ！！！」」」

息びったりだな。じゃなくて、頭が・・・・・・・・orz。

バタリ

フェ「レオ君！？」

俺の意識はここで一旦途絶えた。

2 修行で誤って（後書き）

いつも思うけど、他の人と比べると短い・・・。
（汗）
一応努力しようとしてますよ。

3 悪魔の実って何ぞや？

ハロー、ハロー。エブリバディ！（某21世紀少年2弾の）・・・じゃなくて、こんにちは。俺は、モンキー・D・レオ。なんで苗字が「モンキー」なの？あとこの真ん中の「D」は何？なんかの略か？

只今、海軍本部と言う所に居るそうです。

まあ、俺は無人島で巨大な熊に追いかけて木に登ってぐるぐる模様の変な実を食べて、何故か水とか鳥になれて飛んでたらジジイの軍艦のマストに当たったと言う事故が起きて今に至るわけ。

もう、どうなってもいい・・・いや、良くない！俺は、戻る！東の海に戻るんだ！

「俺は、東の海に戻る！」
と、言ってみた。オリス広場で。

ガ「何言ってるじゃ！最強の海兵になるんじゃ！」

「俺まだ、4才ですが！！」

フェ「4才にしては賢いよな。」

他の海兵さん達もうんうん頷いてる。頷くなああああ！……！ジジイの味方するんじゃねえよおお！……！

「でもさ。無理でしょ。」

ガ「駄目じゃ！最強の海兵になるんじゃ！」

「あ、そういえばさ。」

ガ「スルー！？」ガーーーーン←←

「ぐるぐる模様の果物見つけたんだけど。」

ガ「何！？」

「なんか知ってんの？」

ガ「それは、“悪魔の実”じゃ！」

悪魔？悪魔の実って何ぞや？

「何それ。」

ガ「今、レオが言った果物の名前じゃ。」

「へー。変な名前。」

フェ「まあ、確かに。」

ガ「その実どうした。」

「食った。」

全海兵「「「「何イイイイイイ！！！！！」」」」

ガ「何で食ったんじゃ！」

「無人島で熊に追いかけて木に登ったらそれがあってなんとなく食った。」

フェ「適當……。」（汗）

ガ「何の実じゃ？」

「えーと、確か鳥になれて。」

ガ「トリトリの実か。」

「水にもなれたけど？」

ガ「何！？二種類！？科学班――！！！！！！」

??「はい。はいはいはい。なんでしょう？」

「誰だよお前。」

??「ループです。科学2班長です。で、なんでしょう。」

ガ「何じゃったけ？」

「はあ。えーと、鳥になれて「トリトリの実ですね。」最後まで人の話を聞けええー！！」

ルー「すみません。」

「水にもなれたんだけど。何の実？」

ルー「あ、それ実際に在ったんですね。その実はトリウミの実です。」

「トリウミの実？」

ルー「はい。鳥ならなんでもなれますし、海人間にもなれます。」

「わお。すっげー実食ったんだなー。」

ルー「悪魔の実の能力者全員、海が弱点で海水に触れると力が抜ける。でもレオ君は海人間でもあるからカナズチにはならないね。」

「へー。って言う事は、ルフィにも勝てるのか。」

ガ「そうじゃのー。じゃなくて、海軍本部に残れ。」

「やだ！戻るもーん！」

嫌だよ、こーじ。

「今度来るからー。それで良い？」

ガ「うーむ。分かったわい！」

「じゃ、バイバイ！」

鳥にゝなるゝうゝ何にしゝよおゝかなゝゝ

「うゝん・・・・・・・・・・・・・・・・じいちゃん。」

ガ「お？なんじゃ？」

「鳥って言ったら？」

ガ「焼き鳥。」

「食い物しか思いつかねえのかこのクソジジイ。」

フェ「フェニックスとかは？」

「フェニックスって不死鳥だろ？」

フェ「うん。（あ、不死鳥マルコと同じ？）」

なってみよう！

ボワアア

「うつひよーーーー！！！！青い炎出てきた！」

フェ「本当になっちゃった・・・・。」

ル「才能ありますね。」

「じゃあねーーーー！！！！」

バサツ、バサツ

ふう。これで戻る――！！！！！！！！！！

3 悪魔の実って何ぞや？（後書き）

キャラ壊れた・・・。

4 6年後

ドーン島に無事帰還し、途中コルボ山でルフィとエースと決闘したが、基本的にフーシャ村で手伝いをしていた。

なんで、フーシャ村に居るか。それはコルボ山に行った時の事をちよっと話してみれば分かって貰えると思う。

く帰還してから2日後く

俺はコルボ山に久しぶりに行ってみたくなった。サボが行方不明なのは知ってる。

ドンッドンッ!

ダ「誰だい!ここは山賊の家だぞ!・・・居ない?」

「お邪魔しまゝす。」スタスタ

ダ「下!?てか誰だよ!」

「ルフィ!エース!」

ル「ああ!!レオ!!!!」

エ「レオ!?!」

ダ「レオってコイツか?」

ル「そうだ!」

エ「大きくなっ たな。」

「あ、どうもこんにちは。」

ダ「お、おう。」

「俺のバカズがお世話になってます。」

ダ「バカズ？」

「エースとルフィの事。」

ダ「ああ、なるほど。」

「俺は、モンキー・D・レオ。」

ダ「モンキー！？」

「ガープの孫で、5つ違いのルフィの弟です。」

ダ「ルフィの弟！？逆じゃねえのか！？」

「いえいえ。事実です。」

ダ「……………」（驚）

驚いて固まってるよ。

「そっいえば、ルフィ。俺も能力者になっ たぜ？」

ル「なんの実だ？」

「トリウミの実。さっき2日前に海軍本部から帰還して来たんだけど、聞いたらそれだった。しかも希少種なんだよ。希少種は全部で4つ。その4つの内の1つだよ。」

ル「えええー！！！！！！！！！！」

エ「二日前は海軍本部に居たのか！？」

「おう。」

ダ「なんだってー！！！！」

あ、そういえばこのおばさんカーリー・ダダン。

マ「まーまー、お頭落ち着いて。」

こいつ能力者じゃないけど顔が鶏人間のマグラ。山賊なのに常識人。

ダ「お前はここに？」

「いや、俺はフーシャ村に住んでる。たまに遊びに来るけど。」

ダ「そうかい。」

「だって、この2人だけでもつらいでしょ？」

ダ「分かってくれるのかい？」

「ああ。」

ダ「すまないね。」

「ああ。俺、もう村長家に戻らないといけないから。じゃあな！」

ル「またな〜〜!!！」

エ「また来いよ〜〜!!！」

そう、あの二人は食欲がヤバイ。ジジイが居るみたいなものだし。ちなみに俺は普通の量だ。たまに食い過ぎるけど。

そして、フーシャ村では。

「なあ、それ持っていくよ。」

『すまないね。じゃあ、あそこの倉庫に持って行ってくれるかい？』

「了解。」

倉庫から距離は100Mそんなに遠くない。

さっさと運んで次に移る。結構早くこなしてる為、村人や村長にも褒められてる。

普通の子供なら喜ぶけど、俺は普通にする。

村長に「お前は大人になったら何になるつもりだ？」と言われた。

エースとサボとルフィは海賊だが、

「俺は海賊になるつもりはない。賞金稼ぎか海軍だ。」と答えたところほつとされた。どんだけ心配してんだよ。海賊なんてなりたくないよ。

たまにジジイがやってきたりしたが無事に帰ってもらったりして、6年後。

ルフィは15才。エースは18才。俺は10才になった。

去年エースが海に出た。今日の新聞に手配書が出ている。

政府は一応危険視はしているようだ。

この日は何故か海軍本部の巡回船が港にやって来た。どうやら、俺がここに居ることが分かったようで巡回しているついでに来たという。海軍本部に来て検査をするだけと聞いて、ルフィや村人に説明し、巡回船に乗り込む。そして、出航しドーン島から離れた。

この船は巡回船兼快速船だった。しかも、この快速船世界最速のようだ。4時間後、エニエスロビーについた。

ゴゴゴゴゴゴ

正義の門って言う巨大な扉が少し開く。しっかしデカイ。なんだよこの大きさ。邪魔だなー。

ん？何か見えて・・・目的地の海軍本部か。あ、じいちゃん発見。

でも、検査だけじゃないと思うんだよなー。嫌な予感。

4 6年後（後書き）

時間経つの速いです。

5 ややこしい名前の所で検査すんな！

6年ぶりの海軍本部。そんなに変わってないな。

ガ「レオ？」

しかし、馬鹿でかいよな。でも空座町にはそれよりデカイのがあったけ？あやふやだな。何回も行ってたのに。

ガ「聞いたるのか！？」

「ん？何？」

ガ「やっぱり「フェリー」、検査早く終わらせたい。」……ガ
ーーーーン

ふう。海軍に入れ！って言われそうだった。危ない、危ない。

フェ「あはは。ガープ中将ドンマイです。」

「フェリーー！！」

フェ「あ、はいはい。こっちだよ。」

あんなジジイどっか行っちゃまえ！

なんて思いながらフェリーの後に付いて行つて3分。着いた場所は
“ 検調査用特別大部屋 ”。

名前長くね！？

「……うん？ 検査と調査の略語！？ ええ！？ 検査だけじゃなく調査もすんの！？」

やっぱり、嫌な予感は当たるんだね。

ガチャ

あああああああ！！！！！！フェリー開けやがった！！！！！！

「え？何この大人数。」

「大丈夫。科学班はあの扉の向こうだから。」

「まだ居るの!？」

フェ「僕は付き添いですが、ここに一応残っておきます。」

「はっ！！！！」

「はい。」

『それでは検査を始めるので。・・・』

検査の内容は、身体測定・体力テストだ。

まあ、こんな感じの事を書いてもつまらないから省略。
ちなみに結果だが、（この中は作者が10の時の結果。）

身長 - 151・1cm （同じ）

体重 - レオ「書くな！これだけは！」秘密

握力 - 右21kg、左20kg （同じ）

ハンドボール投げ - 34m （10m下がる）

ハンドボール投げは俺に合わせてか、野球ボールだった。

反復横とび - 40回 （÷2）

全体起こし - 46回 （20）

幅跳び - 2m （1・40m）

長座体前屈 - 35cm （48cm）

持久走1km - 5分47秒（7分）

シャトルラン - 48 (25)

って感じた。……何故作者も参加してるんだ？結果だけ。

フェ「はい。終わり。」

「ふう。……え？終わり？」

フェ「そくだよ？調査はやらないから。」

「良かったー。」

フェ「はいはい。着替えて。」

って、ややこしい名前の所に連れて来るなよ！

もっと分かり易い所在と思うぞ？ったく。

5 ややこしい名前の所で検査すんな！（後書き）

なんか今回も短い気がする。短い？・・・やっぱり短いよね！。

はあ。今テスト期間なんです。だから短い・・・です。

6 ルフィの旅立ち

俺がフーシャ村に帰還して翌日。

ル「レオ！」

もうルフィ行っちまうのか。

「てかルフィ。大樽を乗せたボートで行くつもりか？」

ル「いいんだこれで！！ここから始めるんだおれは！！」

『ボートつてお前~~~~~！！』

ル「サボ~~~~~！！！！見てくれ！！！！おれも海へ出るぞオ~~~~~！！！！」

「サボ・・・本当に見てくれよ？あの弱弱ルフィが海に出て海賊になる所を。」ボソッ

『??.?』

ル「サボが一番・・・！！エースが2番目！！おれは3番目だけど負けねエぞ！！！！待ってるよエース！！！！すぐに追いつくぞ！！！！」

「そうになると俺は最後だな。海賊じゃないけど。」

『なんだルフィ！！叫んだりブツブツ言ったり何かのまじないか？』

確かにそう聞えたりするかもな。俺達以外は。

『エースって誰だ？』

あ・・・そうだ村人は知らないのか。

ル「まじないじゃねエ挑戦状だ！！！！」

『？？』

ル「じゃ！！おれ行くからよ！！！！」

「ああ。ルフィ、仲間集めてエースや俺に勝って頂点目指せ。行つて来い！！！！ルフィ！！！！」

ル「おう！レオ！お前が海賊じゃなくてもおれは海賊だ！海賊らしく奪いに来るからな！」

「ハハッ。どこかで待ってる。」

グオオオオ！！

『まずい！近海の主だ！』

「ルフィ。お前の強さをを見せてやれ。」

ル「レオ！今まで俺を強くしてくれてありがとう！あとこいつ倒すからよお！」

「ああ！倒して行け！！」

ル「ゴムゴムのオ………銃^{ヒストル}！！！！！！！！」

ガアアン！ ザッバアアアン！！！！

『『『わあああああああああああ』』』

「ルフィ……。必ずどこかで会おうな。」

ル「すー……っ。」

「うん？あの台詞か？」

ル「よっしゃ行くぞ！！！！海賊王におれはなる！！！！！！！！」

「行つて来い。」

6 ルフィの旅立ち（後書き）

一応ここは原作を使いました。

7 2年後ではなく来週に

ルフィが無事旅立ったその後、俺は村長家でボーーーーーッとしていた。

『プルプルプルプル』

あ？電伝虫？

『プルプルプルプル、ガチャ』

とりあえずとつてみる。

『村長？』

「なんだ、じいちゃんか。」

『おお、レオ。じいちゃんじゃ。』

「で、用件は？」

『ルフィは居るかの？』

「ルフィか？もうコルボ山には居ないぞ？」

『何！？何処に居るんじゃない！』

「海。」

『海じゃと?』

「そう、海。さっきボートで海に出た。近海の主を倒して。」

『何?!』

「海賊になったよ。無事に。」

『何が無事じゃ!』

「まっ、大丈夫だろ。ルフィだし、俺が教官として鍛え上げたからな。」

『何?そんな事じゃったらわしが引き受けるのに!』

「ルフィが「じいちゃんはおれを殺そうとするから嫌だ。」って言うてたからさ。」

『違うわい!わしは最強の海兵にしようと!』

「無理だよ。ルフィは何かを目指したりするとなかなか折れないし。」

『むう。じゃあ、レオは?』

「俺は、海賊にはならないからな。別に指名手配にされても良いけど。」

『何故じゃ。』

「そんなの気にしないから。狙われても勝つ自信あるし。」

『わしは指名手配にせん！から大丈夫じゃ！』

「サンキュー。」

『ちょっと待て。じゃあ、レオも出るのか？』

「ああ。多分二年後かな？」

『何故二年後なんじゃ？』

「エースもルフィも17歳に出てるから。」

まあ、俺の場合、体が今年でストップするから分からないけどな。
不老不死状態になってるんだよ。まあ、死神のままだし。

『なっ、海賊と同じにするな！』

「分かったよ。俺は来週出る。」

『そうしろ。』

「ああ。じゃあなじいちゃん。」

気づいてる奴もいるだろう。俺があのだジジイを「じいちゃん」って
言ってる事を。これは完璧にルフィの影響だ。ルフィに「レオもじ
いちゃんって言ってよ〜。」ってさんざん言われたからだ。はあ、
あの時は疲れたぜ。

でも、来週か。
ルフィに会ったりして。
(笑)

7 2年後ではなく来週に（後書き）

予定決まったぞー！！！！
今日更新するよ！

8 旅立ち

あの電話の日から一週間が経過。

「フーシャ村の港」

「船で行かないのか？」

「ああ。俺は特別な能力を生まれつきで持っていてな！」

「そうなのか。」

「ああ。鳥で行く。」

「気を付けるよ。レオ。」

「ああ！」

「ガープの奴には言ったのか？」

「先週じいちゃんに言ったよ、村長！」

「そうか。」

「もしかしてルフィに合えたりして。」（笑）

「あ、くれぐれも海賊にはなるなよ！」

「わーてるって！もう。心配すぎ！」

『ふふつ。気をつけてね。レオ君』

「マキノさん。行ってきます!」

『行つてらっしゃい。』

「俺は4番目か。じゃあ!」

俺は白い不死鳥になる。

『わあああああああ』

『初めて見た。』

バサツバサツ ヒューー

無事フーシャ村から旅立った俺は自由気ままに島に行く。

サボが1番、エースが2番、ルフィが3番、俺が4番。

海賊。海賊。自由航海。

なんだこの4兄弟。俺だけ自由気ままに航海かよ……。
へんな兄弟だな。

笑われそう。
た・・・。
誰にだ？俺も分からないこと言っちゃまっ

8 旅立ち（後書き）

短い……。ごめんなさい。見捨てないで……。!!!!
だって、タイトル通りに書いたらこうなった……。!!

9 赤ッ鼻捕獲

この人達いったい何者？

なんとなーく飛び続けていたらサーカス集団が居たからなんとなく寄ってみたけど・・・海賊だったらしい。しかも胴体が無い！？本当に何者？

??「おい！聞いてんのか！！」

「聞いてるよ。赤ッ鼻。」

??「！！・・・貴様~~~~！！！！！！」怒

「あー、相当怒ってるよ？誰のせいだろうな。」

海賊「「「お前だよ！！」「」「」バシッ

突っ込まれたよ。

??「俺はな！“道化”のバギーだあ！！懸賞金1500万Bだあ！！」

「なんだ。たいした事無いじゃん。」

バ「なんだとお!!」

「だったら、俺の兄の方が強いと思うがな。」

バ「兄？」

「俺は、モンキー・D・レオ。」

バ「モンキー?・・・はっ!まさかつ!」

「兄はモンキー・D・ルフィ。知ってるか？」

バ「なっ!?そのゴム野郎にさっき倒されたんだよ!!」

「あ、なら俺と戦わない方が良いよ?」

バ「何故だ!」

「ルフィを強くしたのは俺だからな。しかも、ルフィに負けた事無いし。」

バ「なんだと!?!」

「でも、捕まれ。」

バ「は?」

「破道の四、白雷。」

バ「ギイヤアアア!!!」

海賊「「「ギヤアアア!!!」」」

よし、これで海軍基地に持って行こう。

あ・・・俺能力あるじゃねえか！悪魔の実の！それで行こう！

じゃあ、鵑で行く？下に網持って。漁師に貰ったし。

「おりゃあ！」

バサリ

海賊「あ？なんだこれ？網？え！？網？！」

バ「俺ら、捕まったー!!」

海賊「「「ええええええ!!!!!!」」」

鵑になつて俺はそいつらに言う。

「今から牢獄行きだ。ありがたく思え。」

ははっ！ルフィより強いから簡単だ。

海賊「「「はああああ!!!!!!」」」

バ「ここまでか……。」

ネガティブな船長だな。こんな海賊団は簡単に滅びるさ。

「海軍159支部」

ここは港？で良いよな？じゃあ、海賊団^{これ}を渡しに行くか。ちなみに海賊船はもう海の藻屑だ。帰れないから住居を与えてやるって言っ
た。まあ、牢屋だけだな。

兵「うん？なんだあの力モメ。」

「よいしょ〜！！！」

兵「能力者！？」

兵「何事だ！？」

ジャキンッ

人型に戻ったら銃向けられたよ。別に襲いに来たわけじゃないのに。

「あ〜。」

兵「なんだ！」

「コイツらを渡しに来ただけなんだけど？」

兵「え．．．申し訳ありません！銃を下ろせ！」

兵士達が銃を下ろす。

兵「それは．．．道化のバギーですか！？」

「うん。」

兵「では、受付に来てください。それも持って。」

「分かった。」

どうやらコイツらの船長は賞金首だったらしい。

受付員「ああ。報告は受けてます。えーと、名前は？」

「モンキー・D・レオ。15歳。」

受付員「じゃあ、出身地は？」

「東の海ドーン島フーシャ村。」

受付員「少々お待ちください。」

待っていると、海兵が来た。

海兵「あ、換金はこつちだよ。」

付いて行くと、でかでかと“換金所”って書いてあった。

ガチャ

海兵「えーと、道化のバギー1500万Bでいいね？」

「はい。」

海兵「おーい！1500万！」

「あ、ちょっと待って。」

海兵「持ってきたぜ。ほらよ。」

どんっ！物凄い量の札束だな。こんなにいらないうて。

海兵「ちょっと待ったって、どうした？」

「そんなにいらない。」

海兵「え？」

「1000万で良い。500万は返す。」

海兵「お、おう。」

海兵「何でだ？」

「だって一人だぞ？また捕まえられるし。」

海兵「そうか。よし、偉い！」

「まあ、いきなり保管していた金が1500万も消えて、なんか起きた時に後悔しないようにさ。金は大事にな。」

海兵「ああ。頑張れよ！」

「サンキュー。」

レオがいなくなった換金所では、

海兵「なんか15歳に大事な事言われた・・・。」

海兵「ああ。でも、モンキーってなんか聞いたことあるかな？」

海兵「ああ。なんだっけなー。海軍に居たような？」

海兵「まあ、いい。仕事・・・ってそんなにないか。」

レオの印象が強かったようだ。

9 赤ッ鼻捕獲（後書き）

ルフィ達って進むの早いよねー。だから書き易い。

10 自称 元海賊団員（前書き）

なんか今のところ毎日更新中でしたー。

10 自称 元海賊団員

海軍基地で1000万Bを貰い、どっかの村を探していたら島を発見。

その村の名前は“シロップ村”。

甘そうな名前をしてるな。なんでシロップなんだ？どこを見てもシロップと関係があるのは無いし。そんなことは、置いといて。

??「海賊だあああ!!!」

海賊？どこにも居ないが？

??「一人海賊だああ!!!」

もしかして俺のことか？

??「わああ!!!見たああ!!!」

俺だな。

「ちょっと、待て。俺は賞金稼ぎだ。」

??「なあーんだ。賞金稼ぎか・・・」

??「ええ!？」

??「賞金稼ぎ?!」

??「見えない。」

「何だとコラ。」イラッ

??「ああ!怒らないで!」

「怒ってねえよ。」

??「お前は誰だ!」

「・・・・お前から名乗れ。」

??「おれはピーマン!将来の夢は、大工の棟梁になること!」

ピーマンって、おい。髪型もピーマンだな。じゃあ、もしかしてコイツは、たまねぎか?でもう一人は・・・・にんじん?なんでこいつだけ分かりにくいんだよ!

??「おれはにんじん!将来の夢は、小説家になること!あとおれは情報収集が得意だ!」

あ、にんじんで合ってた。

??「おれはたまねぎ!将来の夢は、酒場の経営をすること!」

「俺は、モンキー・D・レオ。賞金稼ぎをやっている。夢は・・・この世界を変える。大海賊時代を終わらせるのが夢だ。」

た「ええ!？」

に「ちよつと待った!モンキーって……麦わら帽子の。」

「ルフィか？」

に「そうそう!そいつ!カヤ嬢を守ってくれたんだ!」

「そうか。俺はルフィの弟だ。」

ピ「おれたちは元ウソップ海賊団員だった!」

「自称な。あと、海賊ごっこだろう?たぶんルフィは自称船長を仲間に入れた可能性は高いな。」

た「入れたぞ!」

「やっぱり。」

あの馬鹿^{ルフィ}何やってんだ。もう。

あと、どこに居やる!

そんな事を考えてるときルフィ達はココヤシ村で魚人海賊団と戦闘

中で、

レオは“自称”元ウソップ海賊団員の9才少年3人組と仲良く会話中だった。

11 鷹の目

シロップ村を出発して、航海中……いや、航行中だ。飛んでるし。

ん？大海原に小船一隻発見！行ってみよう！

「こんにちは。」

??「誰だ。」

「うん？」

??「ミホークだ。」

「ミホーク？」

ミ「貴様は？」

「モンキー・D・レオ。」

ミ「麦わらの兄弟か。」

「あ、そうだよ。俺はルフィの弟。」

この台詞、あと何回言うんだろ？

ミ「そうか。」

「ミホーク、ここは何処だ？」

ミ「バラティエの前だ。」

「ああ、あの噂の戦うコックが居る海上レストランか。」

ミ「行くのか？」

「いや、腹へってないし。兄とは全然食欲が違うからな。あとじいちゃん。」

ミ「普通の量か？」

「ああ。ミホークって、異名ある？」

ミ「“鷹の目”だ。」

「へー、聞いたこと無いや。」

ミ「海に出たばっかだろ。」

「ああ。でも、俺は賞金稼ぎだけどな一応。」

ミ「ほほう。捕まえるのか？」

「いや、今はそんな気分じゃない。」

ミ「……残念だ。」

「はあ？」

ミ「一回、実力を見てみたいと思ってな。あそこに海賊船残ってる。その船を切ってみろ。邪魔だ。」

「OK。」

青龍、行くぜ。

抜刀して、縦に大きく一振り。すると放たれた大斬撃が海賊船を襲う。

バキイイ

海賊船は全て大斬撃にて海の藻屑になった。

ミ「ほう。なかなかの腕前だ。」

「どうも。」

ミ「多分、世界でトップに立てる日は必ず来るだろう。」

「トップか。」

ミ「そうだ。」

俺、前の世界でトップだった。霊圧とか。

「ミホークは現在トップか？」

ミ「ああ。レオなら大丈夫だ。」

「ありがとう。」

何故か、世界一の剣士“鷹の目のミホーク”と気が合うレオ。二人はミホークの小船で1時間ぐらい話していた。

第三者が見たらどう思われるんだろうか。いろんな感想が出てきそうで怖い。とレオは思っている。

逆に、将来はライバルの“赤髪のシャンクス”を超えて“海賊狩りのゾロ”も超えて世界一になるのでは？とミホークは思っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6624y/>

零番隊長転生記

2011年11月26日16時49分発行